

基礎基本の定着に向けた学校スタンダードの確立

確かな学力と自立する力の育成ー確かな学力の育成ー

◆ 所属・提案者（◎代表者）

川口市立青木中央小学校

◎後藤 清仁

ねらい

本校は、児童数約1000人の大規模校であり、教職員の入れ替わりが多く、指導に統一性を持たせるのが難しい。また、児童の学力の個人差が大きいため、そこで教師の指導力の向上と児童の学力向上のため、以下の取組を継続的に行ってきた。これは学習規律の徹底や学習意欲の向上、家庭学習の計画的な取組など、学力向上施策について共通理解を図り、家庭とも連携した中央小スタイルを確立させることにより全児童の学力を向上させる実践である。

実践内容

① 授業展開と学習規律の共通理解

各教科の基本的な授業展開を共通理解し、研修を重ねることで全職員の指導力を向上させ、児童の学力向上を図るとともに、授業規律について共通指導することで、児童の規律意識を向上させる。

- 新学期開始前に若手教員、臨時的任用教員を集め、若手研修を行う。
- 模擬授業を行いながら、導入の仕方や授業展開について指導及び共通理解を図る。
- 全職員参加の算数、道徳、体育のモデル授業を行い、授業展開について確認し、共通理解を図る。



② 校内漢字の検定

基礎学力の向上を図るとともに漢字の指導改善の契機とする。

- 出題範囲は漢字ドリル・教科書。
- 始業式翌日の検定日に全学年同時に実施。
- 90点以上を合格とし、合格証を出す。
- 合格できなかった児童は再テストを実施。全員合格を目指す。
- 1回目の合格率と、間違いの多かった漢字の傾向を分析し、今後の指導に生かす。(翌月の学年日より、家庭にも伝える。)

- 全50問（1年生は30問）
 - ・ 読み問題 20問（現学年の1学期の新出漢字）
 - ・ 書き問題 20問（前学年の既習漢字）
 - ・ 書き順問題 5問（現学年の1学期の新出漢字）
 - ・ 熟語問題 5問（現学年の1学期の新出漢字）

③ 夏休みサマースクール

1学期の学習、または前学年の学習の中で学年の児童が苦手とする単元の問題に取り組み、技能を定着させるとともに、児童にとって興味のある問題を取り上げ、数学的な思考力を育て、数学的なものの見方や考え方の力を伸ばす。

- 夏休み（2日間）を使って算数教室を開催。
- 参加児童は1～6年生までの希望者。ただ、算数に苦手意識を持っている児童については積極的に声をかける。
- 時間は90分間。
- 中学生ボランティアや学校応援団を活用し、児童数人に一人の講師が配置できるようにする。
- 習熟問題、発展問題、パターンブロック・ジオグラフィックなどの算数的活動、講義などを学年ごとに工夫して行う。



④ 家庭学習の手引き

家庭学習の習慣を見つめ直すことで、児童の学習への興味関心を高めるとともに、家庭と連携し、児童が自分で学習内容を考えて取り組むことで学力向上及び自主性を養う。

- 2学期の懇談会時に家庭学習の手引きを配布し、説明を行う。
- 学年の発達段階に応じて時間を設定し、取組内容について例示する。

実践時期・期間

実施時期：1年をとおして

実践の成果や課題

【成果】

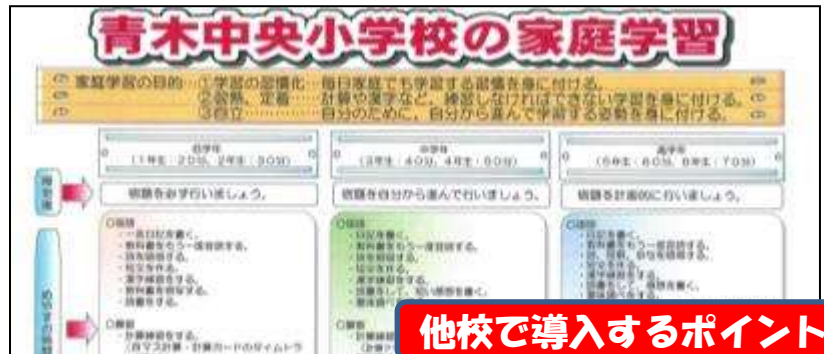
- ・単元や1時間の授業の進め方が分かることで児童も安心して授業に臨むことができた。授業規律が向上した。
- ・漢字の検定に向けて夏休み、冬休みに自主的に漢字練習に取り組む児童が増えた。児童の苦手な漢字について把握し、その後の指導に生かすことができた。
- ・苦手な単元について習熟を図ることで、基礎学力が向上した。
- ・家庭学習の取組方について保護者にも理解していただくことで、児童の自主学習の取組が活発になった。

【課題】

- ・定着が必要な児童が参加できず、学力の底上げが十分にできなかった。
- ・家庭学習の手引きについては、毎年4月に担当が決定してからの作成のため、配布が2学期になってしまっている。前年度に次年度についての検討を行い、4月に配布できるようにしていく。

セールスポイント

共通理解をすることで、本校に新たに勤務する先生方や初めて教壇に立つ先生方の負担を軽減し、授業力向上を図ることができる。児童にとっても授業展開が分かることで安心して授業に臨むができる。



他校で導入するポイント

- ・学校の実態に合わせて優先すべき項目を決定する。共通理解を図った事項については確実に共通指導ができるようにする。
- ・中学校とも連携をとり、ボランティア人数を確保する。

失敗しないための方策

始業式、児童と顔合わせをする前に行うこと。必ず全職員で確認して行うとともに、学期や月ごとに定期的にチェックすることが大切である。また、中核教員やミドルリーダーの意識が成功の鍵である。

こうすればより高い効果が得られる方策など

- ・共通理解事項については学期始めに限らず、定期的実施していく。また、若手教員の授業についても定期的に研修等でチェックを行うことで、さらなる授業力向上ができる。
- ・算数教室については、夏休みに限らず定期的に実施できると、さらに児童の基礎基本の定着を図ることができる。



外部有識者からのコメント

若い先生方が増えてきての取組。臨時的任用・若手の先生方を集めて模擬授業をしたり、授業展開を基盤に家庭学習や様々な学習をしたりして基礎基本の定着を図る取組をしているのはよい。授業展開を共有化させるというのはなかなか簡単なものではない。それを毎年やって、改善しているところに、意欲を感じる。さらに踏み込んだエビデンスがあると、こうした取組を繰り返すことによって、学校全体が学習というものに対する意識が変わり、取組の精緻化が明確になり、スタンダードの意味もより明確になってくるであろう。